

川尻津波供養塔

種市高校から南下していくと防潮堤が続き、しばらく進むと川尻川河口の水門が見えてきます。



その南側、ソーラーパネルが並んでいるその真ん中に石碑が立っています。

昭和の三陸地震大津波で犠牲になった方々のための供養塔です。



石碑には、『不慮の津波に不斷の注意』と教訓が刻まれています。

この津波で、岩手県では約3,000人の方が、洋野町だけでも107人の方が犠牲になったそうです。

津波の恐ろしさを忘れることなく伝えていくためにも、このような石碑の存在も知ってもらいたいものです。



川尻漁港・川尻海岸漁業供養塔

川尻津波供養塔から、防潮堤沿いに南に進むと川尻漁港があります。

漁港の片隅に石碑が！



豊漁祈願と、漁で採った魚介の供養のために建てられたものだそうです。



漁業権境界塔(川尻浜・横手浜)

川尻漁港から、さらに海沿いの道を南に進むと、右手に石碑が見えてきます。

振り返り、海を見ると、海の中にも石碑が！（右下写真の左側）

これは、川尻浜と横手浜の漁業権の境界を示す石碑です。

ちなみに、右下の写真、右側に移っているのはオブジェではなく、東日本大震災大津波で折れ曲がった、海に降りて行く階段の手すりです。

津波のエネルギーの大きさがうかがい知れますね。

